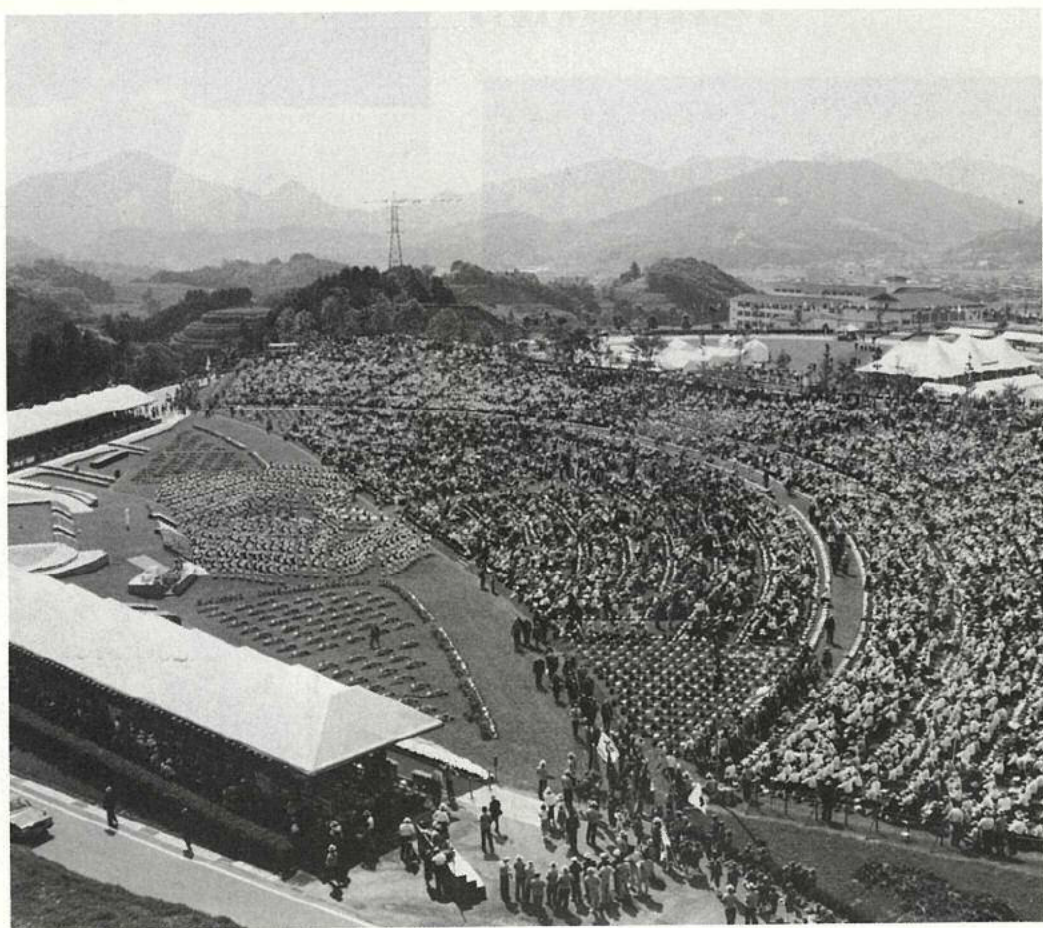




全国植樹祭 5月24日、天皇陛下
をお迎えし、姫野総合運動公園
で盛大に催された。

14

1987. 6



▲金子会長に迎えられ宿舎のシーサイドホテルにお入りになる陛下



▲県人会からも植樹祭に参加



全国植樹祭を無事終えた香月知事は「植樹祭は大変に成功したと思う」と感想を述べた。全国植樹祭と四日間にあたる天皇陛下ご滞在も無事に終わり、この成功をバネに県政運営に当たりたい。陛下には各地をご視察いただいたが、満足いただいた様子だった」と述べた。

植樹祭は成功

くしの歓迎をした。金子社長の先導で七階の部屋にお入りになった陛下は、テレビで大相撲の千秋楽の模様を観戦になるなどくつろがれ、侍従に「よいホテルだね」とお漏らしになったという。翌朝は虹の松原のご散策をお楽しみになられたが、金子社長は「ゆつくりお休みになられたとうかがいホッとしたしました」とうれしそうだった。

一方、全国植樹祭には福岡市佐賀県人会に対しても出席の案内があり、高田副会長はじめ理事らも五名が参加した。

親子二代の名誉

感激の金子宜嗣社長

福岡市佐賀県人会会長の金子宜嗣氏（唐津シーサイドホテル社長）にとって、全国植樹祭は感慨深いものとなった。二十四日、嬉野町の嬉野運動公園での全国植樹祭に出席され

た天皇陛下は特別列車で唐津市にお着きになった。お宿泊所の唐津シーサイドホテルでは野副豊唐津市長とともに金子社長がお迎えし、ご案内役となった。陛下の唐津市ご訪問は、昭和

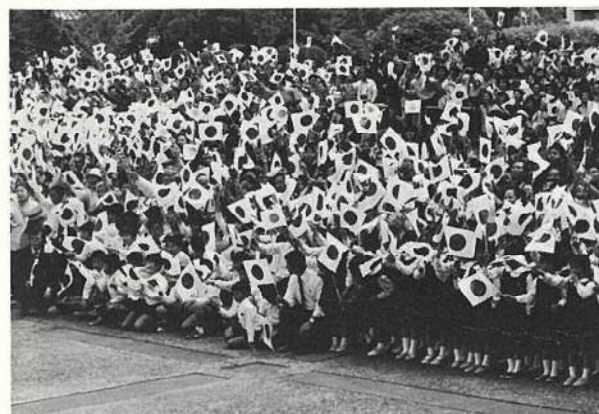
三十六年四月の九州一周旅行に次ぐもので、前回も金子社長の実父金子道雄氏（故人、元唐津市長）が陛下をお迎えし、私邸にお泊りいただいていた。陛下は特別列車の窓から「あつ、あれは鏡山だね」とお話しになるなど、前回の旅行を思い出された様子で、唐津市のごとをよくご記憶になつていらした。金子家にとっても親子二代にわたる名誉となった。

唐津シーサイドホテルでは、前回の旅行の際のお写真を納めたアルバムをお泊りのスイートルームにご用意し、また、金子邸に前回も置いていた尾形光琳の乱れ箱、食器も配して心づ

緑豊かに陛下お手植え

第38回全国植樹祭——嬉野町

ヒノキをお手植えされる陛下▶



▲会場までの沿道は陛下をお迎えする県民の日の丸の波が揺れた



一万五千人参加 揺れる日の丸

「たかめよう 緑の力」を大会テーマにした第三十八回全国植樹祭が、さる五月二十四日、私たちの郷土、佐賀県は新緑の茶畑が波打つ藤津郡嬉野町の嬉野総合運動公園に天皇陛下をお迎えして盛大に開かれた。前夜までの雨がうそのように上がった五月晴れの下、県外からの招待客三千人を含む総勢一万五千人の参加。陛下のお手植えやお手まきははじめ、参加者全員の記念植樹など佐賀の地から二十一世紀への緑あふれる国土づくりを誓った。



▲虹の松原を散策される天皇陛下

午前十時、若葉薫る青空にファンファーレが鳴り渡り、煙火の音を合図に開会。前年開催の大府の副知事から原健三郎大会会長（衆議院議長）の手を経て大会旗が香月熊雄佐賀県知事へと渡り、みどりの少年団が、日章旗、県旗とともに掲揚した。天皇陛下は午前十四時四十五分に会場にご到着になり、激しく打ち振られる日の丸の小旗に何回も手を上げておこたえになりながら香月知事の先導でお席につかれた。

緑化功労者の表彰の後、陛下は「ともに親しく植樹を行うことは喜びにたえない。今後とも植樹を推進し、緑あふれる国土の建設に寄与することを望みます」とお言葉を述べられ、自らヒノキ三本とクスの種子をそれぞれお手植え、お手まきになった。

陛下は植樹祭ご出席後、陶器の都、有田町の県立窯業高等学校をご訪問になり、土練り、ろくろ、給付け、焼成など焼き物製造工程の実習をつぶさにご覧になった。

またJR有田駅から西唐津駅まで、特別列車で約一時間の列車の旅を楽しまれ、有田駅では石井幸孝JR九州社長らが先導を務めた。



昭和自動車株式会社

代表取締役会長 金子勝商 本社/唐津市千代田町2565-5
TEL (09557)4-1111
代表取締役社長 金子宜嗣 福岡営業所/福岡市東区東浜1-8-8
TEL (092)641-6381

このごろ 私は



音楽のある人生 渡辺 千春さん (旧姓 千々岩)

昨年五月でしたが、福岡銀行本店ホールでリサイタルを開きましたところ、沢山の懐かしい同郷の方々が来場くださり、ありがとうございました。お陰さまで盛況に終えることができました。

私が音楽の道に進みましたのは、亡父の反面教師的な言葉が

きっかけになっているようです。「お前の体には毛唐の音楽の血は流れちゃおらんぞ」と反対する父は、芸大を卒業してもピアノすら買ってくれない頑固さで

今、青春真ん中
高木 博見さん

万里市出身

伊

今、ふり返ってみると、私が玉屋で働いて五十年になる。昭和十年より三年間、夏休みにアルバイトに行っていたのが始まりで、そのころアルバイトというのも珍しかった。支那事変の始まりの時でした。それから玉屋に入社したが、間もなく軍に入隊し、戦地を七



年間も転々としたが、遅く帰国することができた。現在は子会社の玉屋食品というデパートの食堂を中心に店を開いている会社を引き受けている。

北九州、福岡、佐賀に十一カ所の事業所を持つ小企業だが、この会社を大きく、堅実な会社に育て上げていくことに、こよなく楽しみ、希望を持っている。また学校の同窓会「栄城会」も楽しいが、戦友会もまた経験のない人にはわからない懐かしさと楽しみがある。まだまだ山ほど仕事のある身で、目下、頑張っている。

松永安左衛門翁の訳に次のような下りがあった。

「たくまじき意志、優れた想像力、燃ゆる情熱、怯懦（きよ）うだ）を退ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心。こう言う様相を青春と言ふ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失ふときに初めて老いが来る」

(玉屋食品社長、川副町出身)



むつごろ作ろう

神原 祥光さん

ふるさとはいいもんだと思う。いきなりこんなことを言ってしまったが、先ごろテレビ各局で鹿島の「ガタリンピック」が放映されて、エライ人気だ。わがふるさとが全国に向かってガンパッテいる。これはうれしい。

渾身の気力はムツゴロウだが、わが県人会の会報「むつごろ」は、やや苦境にある。編集作業のほとんどをこなしてくれていたO氏が突然に転勤となつてしまったのである。県人会員を結ぶ大切なさななの一つが、この「むつごろ」。なんとしても発行は続けたいが、おいそれとでき

るものではない。

これからは「むつごろ」を育てるために若い会員の協力をお願いしたい。(エイシン商事社長、鹿島市出身)

このごろ 私は

カマボコ業界と私

藤家 昭さん

私がカマボコ業界に入ったのが昭和五十二年。二百カイル問題が発生した年です。福岡へは昭和五十三年に縁があつて来ました。

現在、業界全般は原料のスリ身問題で厳しい状況ですが、幸い峰屋は消費者の皆さまに可愛いがられて今日まで来ました。出産祝いから始まり、入学、卒業、結婚などの人生の節目、あるいは家の新築祝いなどの祝い事に利用していただけという喜びもあります。



同郷人は働き者

井上 浩輔さん

私は佐賀県三田川町から通勤しています。福岡県の青年部の代表として、全国清鮮青年協議会の理事、さらには全国清鮮水産加工業協同組合連合会の担当理事として東京、大阪での役員会に出席し、情報収集と営業活動をしている昨今です。

本店は新天町商店街の中ですから会員の皆さまがご進物をお考えの際は、カマボコをご利用下さい。(新天町峰屋常務、鹿島市出身)

佐賀県人はやはり働き者です。頭が良く、潔癖な人が多いと思います。博多の町では、近所にお嫁さんが来ると、いかにベツピンさんか、いかに踊りがうまいかが話題になります。私の記憶にある佐賀は、いかに掃除が早い、いかに種まきが手際よい、いかにウサになり、村全体が働き者を育てていたようです。

大阪にいたころ、電車の中で二十年ぶりの同級生にバツタリ会いました。佐賀では、よんな

ほうで、いつも先生に叱られてばかりいて、そして彼は中学を出ると、すぐに大阪の工場に就職したのですが、見るからに精かんで引き締まった顔は、佐賀県人そのものでした。世に出るとやはり、他国の人より早く職長の地位に就き、頑張っている様子でした。私も佐賀出身であることを誇りに思つたもので

す。

このごろ思うことは、戦後の日本人はずっと都市の荒廃を憂い続けてきたが、どうにか都市型のモラルができたところ、いつの間にか今度は田舎が荒廃し始めたのではないかと

いうことです。農業の発展や改善よりも地価の値上がりや補償金の額に血道をあげる傾向が強くなっているようです。

結果は産業のみならず治安も悪くなり、蟻（しつけ）、教育も低下し、田舎のモラル全体が失われていくようです。

日本中にこれまでなかった、モラルによる新しい階層分化さえ始まっているような気がします。田舎を去つた者がとやかく言う資格はないと知りつつも、やはり出身地だけはいつまでも誇らしく名乗りたいものと思

います。ともあれ私はここ数年、厄（やく）が明けません。しかし、す

楽しいキノコ狩り

熊川 雄次さん

五月末、近くの梅林に「ハルシメジ」を探しに行きました。キノコです。でも一カ所だけしか発生していませんでした。例年なら四月末から五月初めに大量発生します。

自然の奥深さには、いつも驚かされています。神社のシイノキの大木（福岡市の保存樹）の根元に珍らしい「カンゾウタケ」を三個見つけました。キララゲに狩りも大収穫でした。

キノコの会（福岡県食友の会）の事務局長を引き受けてから歩く機会が増え、健康になったように思います。キノコに興味のある方、自然を楽しみながらキノコ狩りを一緒にしませんか。野山で珍らしいキノコを見つけたら私の家へ電話を下さい（増本彩工舎福岡支店長、

グラビヤ印刷機設計製作並に
高級グラビヤ精版用シリンダー製作

有限会社中山鉄工所

取締役社長 中山 政一
福岡市博多区豊2丁目2-24
☎411-4510代

舶来紳士服

メンズプラザ コガ

〒815 福岡市南区若久4丁目1-2
TEL511-9030

佐高30年卒 古賀 勲

英国製有名メーカー品 背広上下 お仕立上り 58,000円より

誂え カッターシャツ

3枚で 13,000円
(1枚 7,000円以上の品)



三月、九州横断道武雄北方インターがオープンし、武雄温泉は福岡から一時間行動圏になった。武雄市は今、ハイウェイ時代到来を市浮揚のきっかけにしようと、張り切っている。古い歴史を誇る温泉街の旅館も一斉に衣替え、御船山のふもとには、中央資本による大型リゾートホテルが進出して、温泉地に力強いインパクトを与えた。

「横断道開通は、明治二十八年の鉄道開通に匹敵する変革です。魅力あふれる武雄市づくりを全力投球中です」と意欲的な石井市長。祖父良一氏は博多駅第六代目駅長で、後の若松市長。ハイウェイの開通を鉄道になぞらえるあたり、祖父の血を引いているからか。

横断道開通で市勢浮揚を 福岡から一時間行動圏に

ふるさと会



武雄市
石井 義彦市長

飲んで
しゃべって
助け合って

ふるさと会
同窓会



南区二十日会



山口 徳次会長

福岡市佐賀県人会は、発足以来ずっと同県出身者に入会を勧めるのに懸命だった。そのためには県人の調査をすること、さらに各地に組織拡大の拠点となる県人会地域支部を設立することが必要だった。そのような

今や、時代は技術文明の成熟期に入り、その一方では対話と協調の必要性が叫ばれ始めている。社会を形成するものは、時とともに変化するが、それを行っている人の郷里を思いやる気持ちも親しい仲間との交流は変わるものではない。

友と集まり、共に楽しむ県人会や二十日会の真価は、いよいよこれから発揮されることになるだろう。(山口)

今年春の統一地方選挙で選出された福岡市佐賀県人会会員の県議会議員と福岡市議会議員を紹介しします。八人の県議、市議の皆さんは、日ごろのきめ細かい地域発展のための努力が実って、激戦の末、当選の栄冠を勝ち取られました。大いに活躍を期待したいと思います。(敬称略、五十音順)

川上 義之



当選三回▽自民党▽南区▽福岡大卒業▽市議会第五常任委員▽
▽三日
月町出身▽四十二歳

古賀 輝昭



当選五回▽福岡会▽東区▽国立九工大(短)卒業▽
委員▽
▽千代田町出身▽五十歳

南原 勇一郎



当選五回▽自民党▽博多区▽満州国立新京法政大卒業▽市議会第二常任委員▽
▽武雄市出身▽六十三歳

宮副 博昭



当選三回▽自民党▽南区▽西南学院大卒業▽市議会第一常任委員▽
佐賀市出身▽四十一歳

江頭 慶典



当選四回▽県民会議▽東区▽旧制長崎高商卒業▽県議会建築労働常任委員▽
▽東脊振村出身▽五十八歳

篠田 栄太郎



当選五回▽自民党▽中央区▽早稲田大卒業▽県議会文教常任委員▽
▽諸富町出身▽五十歳

田中 久也



当選五回▽自民党▽西区▽明治大卒業▽県議会厚生常任委員▽
▽佐賀市出身▽五十四歳

前田 憲義



当選四回▽自民党▽東区▽福岡大卒業▽県議会厚生常任委員▽
▽富士町出身▽五十七歳

武藤 英治



当選二回▽自民党▽城南区▽慶応義塾大卒業▽県議会厚生常任委員▽
▽江北町出身▽三十五歳

佐賀県人会員の県議・市議

福岡県・県議

福岡市・市議

◆映画「次郎物語」完成



佐賀を舞台に 豪華な顔ぶれて



下村湖人(千代田町出身)原作、井手雅人(佐賀市出身)脚本。三十年ぶりの県内本格ロケ。県民映画として注目を集める「次郎物語」がいよいよスクリーンに登場する。湯遊びや浮立といった佐賀の風土を詩情豊かに織り込み、モノ・中心の現代社会に親子のきずなの素晴らしさを訴える感動作。六月二十日からの佐賀県内ロードショーに先立ち、先ごろ佐賀、唐津両市で行われた一般試写会では、会場が感動に包まれた。七月四日から全国一斉封切りとなる。昨年夏からの県内ロケで、次郎フィーバーを巻き起こしている映画「次郎物語」加藤剛、高橋恵子、永島敏行、高松英郎、芦田伸介、泉ピン子など豪華キャストほか、地元からも子役が多数出演している。

東京・有楽町のマリオン劇場ホールでの試写会は、浩宮さまもご覧になった。



◆店頭でキノコ狩り



大手企業のシイタケなど林産物生産への進出が目立っているが、東松浦郡七山村のスーパードでは、人工ほだ(菌床)で栽培されるシイタケが登場、話題となっている。

このシイタケは、ショウケースの中で栽培しながら販売されており、自分の手で摘み取って買うこともできるし、人工ほだごと買って家庭で育てることもできるという。販売しているのは、七山村滝川の「阿部ストア」。福岡市城南区にある国際食菌研究所から人工ほだ五百個を仕入れた。温度一八・二五度、湿度七〇％以上に保っておくと、一週間から十日でシイタケが生長、収穫できるといわれて、珍らしさも手伝って、人気を呼んでいる。

◆葉隠の未発表遺稿



「校註葉隠」の著者で知られ、昭和五十一年に九十歳で亡くなった。

つた栗原荒野翁の未発表遺稿が発見され、葉隠研究会の機関誌「葉隠」の第四号に収載されている。「葉隠挿話集」と題し、分りやすい文体と内容で、一般への葉隠精神の普及を願った翁の思いが読み取れ、興味深い。遺稿は、荒野翁の長男で県立図書館資料課長の栗原耕吾さん「佐賀市」が、書籍を整理していた時に見つけた。百枚以上の書き下ろしで、昭和四十年代の晩年に、出版社の求めに応じて書いたものらしいが、本にはならず眠っていた。機関誌「葉隠」に数回にわた

◆利用100万台突破

昨年七月二十四日に開通した福岡―佐賀県境を結ぶ「三瀬トンネル有料道路」の通行車両が、六月一日に百万台を突破し、ドライバードに記念品が贈られた。幸運の百万台目になったのは、早良区の建築防水会社経営者兼爾さん(四六)。三瀬トンネルは仕事の関係で週四回ほど利用するとのこと、この日も久留米市に行く途中だった。二十分ほど短縮されたので大助かりです」と言いながらも、思いもよらないプレゼントにびっくりするやら喜ぶやら。

◆69年開港を目指す

佐賀空港は果たしてできるのか。九州では佐賀県だけが空港を持たないだけに、行方が注目される。第五次空港整備計画に採択されており、来年度政府予算の要求日程の上からも八月までは、建設予定地の佐賀郡川副町の了解を取り付けたい佐賀県。

滑走路を二千五百メートルから二千メートルに短縮するなど佐賀空港基本設計の見直しを進めていた県は、このほど最終改定案をまとめた。それによると昭和七十年の需要予測(利用客見込み)は、当初計画の四割にすぎない六十七万人に大幅な下方修正が行われて



◆コットン、四連水車

東松浦郡相知町切地区で田植えシーズンと夏の到来を告げる風物詩、四連の羽根水車が回り始めた。「ギィーツ、ギィーツ」「コットン」。のどかな水車の音とくみ上げられた水の落ちる音が重なり合って、田園風景の中に響いている。国道203号から見える。



完成予想図

◆基山ニュータウン

旭化成工業が三養基郡基山町猪ノ浦に造成する「新きやま台

佐賀県だより

NEWS FROM SAGA

佐賀県だより

ニュータウン」(仮称)が建設に入った。

六十鈴の用地に千五百戸の住宅を建設、緑の多い周辺環境に適応した街を三百五十億円かけて建設するもので、六十六年二月に造成完了の予定。分譲終了後の推定人口は六千人を見込んでおり、福岡からの通勤もラクラクというところで、佐賀郡富士町クラスのニュータウンが誕生することになる。

◆虹の松原薬割散布

国の特別名勝、虹の松原をはじめ唐津市と浜玉町で六月十日朝、ヘリコプターによるマツクイムシ退治の薬割空中散布が行われた。

近年では松の立ち枯れも激減しており、佐賀管林署と県とはことしも約二百四十鈴に散布した。

百万本のクロマツがある虹の松原では、マツクイムシの被害が四十五年ごろから広がり、四十八年から空中散布が始まった。



◆産卵地をきれいに

伊万里市のカブトガニを守る会(二百人)がこのほど、カブトガニの産卵地として市の天然記念物に指定されている伊万里市木須町の多々良海岸を清掃した。



冬を湾の深いところで過ごしたカブトガニは、五月ごろから回遊を始め、六月下旬から八月中旬にかけて、つがいで海岸へ産卵にやってくる。このため守る会では五十五年から産卵期前にゴミを取り、産み付けやすいように清掃しており、その日も海岸に砂を入れた。

カブトガニは「生きた化石」とも呼ばれ、日本では北部九州と瀬戸内海が北限。

◆みなとまつり

伊万里港は六月一日に、開港

指定を受けてからちょうど二十年を迎えた。これを記念し、八月一日、二日の両日、伊万里市山代町久原の伊万里港ふ頭用地で「伊万里みなとまつり」が盛大に行われる。

◆夏を前に砂浜再生

海水浴シーズンが近づいた。浜崎海水浴場の砂浜流出現象に悩む東松浦郡浜玉町は、玉島川の河口にたい積した白砂八千六百立方メートルを浜崎海岸に移し替える「砂浜再生計画」に乗り出す。河口しゅんせつと海水浴場整備を兼ねた一石二鳥の作戦で、浜玉町が本格的に砂浜の再生を行うのは初めて。



略歴 昭和二十七年、九州電力入社。米田・ウエスチングハウズ社で一年間研修。三十年の帰国後、工務、火力、原子力、企画の業務に従事。第一次オイルショック後は三年間にわたり東京・経団連ビルの中央電力協議

会に開発計画部長として出向。五十二年から燃料部次長、工務部長を経て、五十八年から取締役燃料部長。六十二年七月より取締役常務(現在内定)。電気学会九州支部長、旧制佐高菊葉同窓会福岡支部長、県人会副会長。



県人会副会長 安都間 明氏

つる郷里への想い 家庭は佐賀弁ばかり



60年11月、福岡市内ホテルの九州歌祭で

私の履歴書

敬愛していた故吉田正勝氏(元九州電力常務)のあとを受けて、昨年から副会長を仰せつかったのですが、自分のことを紹介するほどの業績や経験も持ち合わせませんので、子供のころの思い出など書かせてもらいます。

小学生から中学初めのころで、思い出するのは、魚とりのことばかり。田舎の四季の変化が魚とりと二重写しになって生き生きとよみがえります。

春は水増したクリークに、獲物の期待に胸を膨らませながら、ハリやドウケを揚げに行く。やがて梅雨期の「あがき魚」。真夏はドジョウやウナギウケ。それに浮ブナ釣り。すぐ近くに城原川が流れていて、ハヤの方も忙

しくなります。ヘラブナ釣りは、稲穂が垂れる秋が本番。そして冬が訪れると堀ほしと続きます。よく「勉強せよ」と厳しく叱った親が、不思議に魚とりについては知らぬ顔。今にして思えば、あれは栄養供給、特に蛋白源への配慮であつたらうかと、切ない気持ちにもなります。

昭和四年、神埼町本告半田(旧西郷村)に生まれ、西郷小、三養基中学校と進んで、大東亜戦争の配慮であつたらうかと、切ない気持ちにもなります。

も末期の十九年暮れ、海軍兵学校に繰り上げ採用となりました。いわゆるアンカーの七十八期。もちろん江田島は満パイです。翌年三月、佐世保第三海兵団に入校、防府の海軍通信学校の一角に移ったところで終戦を迎えました。

生家の隣は、当時、県議の馬場富久氏(故人、山下徳夫議長)の時の副議長で、親せきでもあり強く影響を受けて、旧制佐高へ進学したものです。お陰で九大工学部(電気)にも進むこととなり、ついでに仲人もお願いして、目達原郵便局の末娘をもらいました。純血佐賀んべえのわが家は、今も一日中、本格的な佐賀弁です。

最近とみに、ふるさと恋し、昔懐かしの想いがつのるようになりました。先ごろ、三養基中学校の卒業四十周年記念同窓会を催したところ、東京、大阪方



JR博多駅の筑紫口。都ホテル裏の通りに小料理「小判」がある。小料理店といえは小さな店を想像するが、店は三十六坪もあり、七、八十人は入れる。写真のお二人。江崎さんが右で、左は実妹池松昭子さん。江崎さんは昭和三十三年、二十五歳でご主人に先だたれ、男の子二人を連れて佐賀市から博多にきた。新生活を立てるために、小

判「小料理」経営 江崎 静子さん (佐賀市出身)



ノレン守って30年

判「小料理」経営 江崎 静子さん (佐賀市出身)

細腕繁盛記というおうか、四十年には新しい博多駅の開業に合判「小料理」経営 江崎 静子さん (佐賀市出身)



総合警備保障福岡支社 調査役 稲益 正晴さん (上峰村出身)



第2の人生に意欲

衛官の道へ。久留米市の陸自幹部候補生学校を振り出しに、教員になるのがイヤだから選んだ道でもあったが、進んでみると在職中の大半が教育関係のポストだった。防衛大学の教官、富士学校、統合幕僚学校などに十五年余り。第四師団(春日市)のころは若楠国体支援の担当部長を務めた。

懐しい佐賀県人会の皆様のおこしを心からお待ち致して居ります

日本観光旅館連盟 観光ホテル 嬉野温泉

聡明閣

〒843-03 佐賀県藤津郡嬉野町下岩屋 TEL (0952) 421195~8

新会員ご紹介

(敬称略)氏名 連絡先(電)
電話番号 職業 出身地の順

安永 良雄

東京第一ホテル福岡

正嶋 英雄

西鉄▽伊万里市

平野笑美子

佐賀市

西 正明



理事

田中秀男

先日、NHK総合テレビで九州七県の県民気質の違いを特集していた。佐賀は「内交的で分裂気質」であるらしい。そう言えば思い当たるふしがある。佐賀県人会の総会の司会を引き受けた時もそうだった。

▽塩田町

前田 安久

大同生命保険相互会社▽有田町

岸川健次郎

▽岸川工業▽神埼町

江上 正俊

▽福岡銀行▽有田町

井手 久

▽日本紙パルプ商事▽佐賀市

古賀 勲

古賀 勲

佐賀市

江崎 静子

▽メンズプラザ古賀▽小料理「小判」▽佐賀市

川上 義之

▽明倫社▽三日月町

佐野 文彦

▽酒類販売▽佐賀市

吉田 甫

▽九州支店▽諸富町

坂田 正勝

坂田 正勝

▽正興電機製作所▽川副町

井手 正起

支店▽相知町

▽大成建設九州

坂元 章市

▽植田解体産業▽唐津市

蘭 健吾

▽西日本研修センター▽久保田町

山崎 孝浩

邦生命保険▽神埼町

▽東

故郷を同じくする仲間の集い。前半の総会は別として、後半の懇親会を楽しく盛り上げようと、のど自慢の人を探すのも司会者の役目。出席者の顔ぶれを見ながら、出場打診に各テーブルを回る。

前年歌っていた人にお願する。すると「おいはよか。誰じやいほかの人に頼みんさい」という返答。遠慮なのか、テレなのか、一人として快く約束してもらえない。つい役員に頼んでしまう。

と、まあここまででは良いが、

いよいよ懇親会に入り、宴もたけなわ。役員が歌い、ぼつぼつ酔いも回ったところ、役員の方が司会の私のところにご注進。「Aさんが、おいどめにやあ歌わせて、わがどんばつかい。いっちゃん面白うなか」と言っている。ゼヒとも出てもらって下さい」とのこと。

当惑を顔には出さず、「ハイ、承知しました。すぐお願いします」と言う。実はこのAさん、私が懇親会の始まる前に出場をお願いした人だった。

のだから、福岡県人の外交性と佐賀県人の堅実な気質とを、うまくミックスさせながら活躍したいものです。

たのです。

このささいな事が、私たち佐賀県人の気質を物語っているとは断定しません。実は私自身もAさんのように、テレなのか遠慮なのか、何か頼まれてもすぐに引き受けることの出来ない場合が多いようです。

せつかく福岡に住んでいるのだから、福岡県人の外交性と佐賀県人の堅実な気質とを、うまくミックスさせながら活躍したいものです。

編集デスク

オッショイ。博多ツ子の血をわかせる「博多山笠」ももうすぐ。さてさて、これから本格的な夏の到来。マムシでも食って精をつけ、激しく暑く、不況でむせ返る夏を、ドツコイ、乗り切らなくてはなりません。

前回が十一月でしたから、「むつごろ」もインターバルが、ちと長過ぎました。統一地方選が荒れ模様のままに幕を下ろしましたし、永倉名誉会長が、国鉄改めJR九州の会長を引き受けられるなど、いろんなことがありました。

これからも郷里を同じくする仲間が集って県人会を育て、「むつごろ」を育てたいものです。

会報 むつごろ

昭和62年 6月20日 発行

福岡市佐賀県人会

(発行責任者 溝上 嘉幸)

福岡市中央区天神4丁目1-6

昭和セントラルビル内(〒810)

☎ 092-7 6 1-8 2 5 3

制作 (有)タナカ製本印刷所

☎ 092-7 1 2-2 5 5 2